



平成 30 年 10 月 11 日

各 位

会社名 株式会社 さ い か 屋  
代表者 取締役社長兼社長執行役員 岡本 洋三  
(コード番号 8254 東証第 2 部)  
問合せ先 執行役員 経理部長 堀江 肇  
(TEL. 046-845-6803)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 30 年 4 月 12 日に公表いたしました平成 31 年 2 月期通期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

##### 1. 業績予想の修正について

平成 31 年 2 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 30 年 3 月 1 日～平成 31 年 2 月 28 日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 発 表 予 想 (A)	20,800	165	40	30	9.61
今 回 修 正 予 想 (B)	19,770	15	△110	△100	△32.05
増 減 額 (B-A)	△1,030	△150	△150	△130	
増 減 率 (%)	△5.0	△90.9	—	—	
(ご参考) 前期実績 (平成 30 年 2 月期)	19,855	△13	△124	△125	△40.14

##### 2. 修正の理由

平成 31 年 2 月期通期におきましては、第 2 四半期までの結果および第 3 四半期以降の業績動向を踏まえて、通期業績予想を修正いたします。

平成 31 年 2 月期第 2 四半期累計期間におきましては、中元需要の低迷に加え、連日の猛暑や台風の影響も受けたことから、全店舗で予想した売上高を下回る結果となりました。経費の面では、ローコストオペレーションを推進し効果的な経費運用に引き続き取り組んだ結果、計画内の着地となりましたが、販売収益の計画値未達を埋めきれず、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに当初予想を下回る結果となりました。第 3 四半期以降につきましても、業種業態を超えた近隣商業施設との一層の競争激化や中元期同様の歳暮需要の低迷が想定されることから当初予想の売上高が減少し、その結果平成 31 年 2 月期通期では、営業利益 15 百万円、経常損失 110 百万円、当期純損失 100 百万円の計上見込みであります。

第 3 四半期以降につきましては、平成 30 年 2 月期を初年度とする向こう 3 年間の中期経営計画の主要施策である「営業力の強化」の推進による売上高の回復および近隣商業施設改装工事に伴う一部休業による顧客の取り込み、継続的なローコストオペレーションの実施による効果的な経費運用に取り組んでまいります。

なお営業力強化策としては、平成 30 年 9 月 1 日付の組織変更で、商販分離による役割の明確化をおこなったことで、セントラルコントロールによる商品調達力の強化、店頭各フロアに販売指揮者を配置することによる販売力強化をはかり現場力を更に向上させます。更に同日の組織変更での外商部新設とともに、外商担当者を増員させたことにより外商売上高の増大をはかります。基幹店の藤沢店では 6 月に新規 13 ショップをオープンしたことや、前年のリニューアルによるリモデル効果を今後も最大限発揮するよう取

り組むとともに、春夏商材は休業セールの影響で売上高への反映が限定的であった近隣商業施設改装工事に伴う一部休業による効果を取り込むよう営業施策の積み上げおよび店頭での CS 向上の徹底をより一層推進します。

来年度以降につきましては、引き続き、現場力強化・CS 向上・外商強化を推し進め、藤沢店・横須賀店の入店客数増加に繋がる改装も視野に入れた店舗の魅力を向上させる施策に取り組むとともに、固定費用を見直すなどの抜本的なローコストオペレーションを推進することで早期の黒字化を目指してまいります。

上記業績予想は、現時点において入手可能な情報にもとづき作成したものであり、実際の業績等は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以 上